

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4150280024
法人名	特定医療法人芳香会
事業所名	グループホーム西唐津駅前
所在地	唐津市西唐津一丁目6167番地 (電話) 090-4485-2644

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月23日	評価確定日	平成 21年4月28日

【情報提供票より】(平成21年3月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,200 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,160	円	

(4) 利用者の概要(平成21年3月9日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	1 名	要介護4	2 名			
要介護5		要支援2				
年齢	平均	81 歳	最低	72 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	唐津第一病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋コンクリート3階建ての2階部分を改築し、グループホームとして利用されている。1階部分には認知症対応型デイサービスが展開され、ホームとの交流等支援活動が積極的に行われている。母体が医療法人で、近くに医療施設や介護老人保健施設を運営している。また、居宅介護支援事業所なども併設しており、自宅へ戻った場合でも、医療面でも安心してサポートが受けられる。入居者の希望に添った散歩時の会話や保育園との交流会等、地域交流が行なわれ、開放的な環境で過ごされている。また、入居者の能力に応じ、役割をもった生き甲斐のある生活支援がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価項目については、会議等通じて全員に周知されている。改善点や結果についてはファイルに綴じ、職員がいつでも閲覧できるようにされ、共通理解に努められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組まれている。評価項目については会議等をもたれ、その中で出された意見や気付き等については、サービスの質の向上に反映されるように努められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月に1回開催され、毎月のサービスの内容を報告し、そこで得られた意見や情報等を聞き、サービスの質の向上に努められている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時等、家族が来られた際に意見や要望等を聞き取り、必要に応じて自宅訪問をするなど、家族の意向についての把握に努められている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	西唐津校区の文化祭や福祉まつりなどに積極的に参加されている。参加にあたり独自のチーム「おたっしやコーラス隊」を組織され、入居されてる方々の趣味やカラオケ等を披露されている。また、近くの西唐津保育園と交流等、地元の人々とのふれあう機会も設けられている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊敬、思いやり、安らぎの理念と、実践的な6つの心得を掲げ、年の初めに1年間の目標（本年度安全第一）が年毎決められ、実施されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員と管理者の会議により決定され、共有化し、具体化できるように取り組まれている。情報についても気付きノート等が活用され、共有化が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	独自の音楽サークルを立ち上げ、福祉イベント等に参加され、ホームの紹介や地域との交流をもたれている。また、趣味活動を通じて地域の福祉活動等にも積極的に参加され、地元の人々との交流に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組まれている。評価項目については会議等をもたれ、その中で出された意見や気付き等については、サービスの質の向上に反映されるように努められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催されている。参加される方々に、毎月のサービスの内容を報告し、意見や情報等を聞き、サービスの質の向上に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所等には積極的に出かけられ、情報収集と分からない事は確認したり、電話連絡等行い、サービスの質の向上に繋げる様取り組まれている。介護相談派遣事業から月に1回の訪問を受けられ、入居されている方々の意見等についての聴取にも取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「西唐津便り」を家族の方へ郵送されている。家族面会時等は預かり金の収支の報告から健康状態、生活状況等入居者個々に応じた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に、意見や希望の確認がなされている。また、必要に応じて電話や自宅訪問等がなされ、反映できるように努められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時は、ボランティア等から仕事についてもらい、馴染みの関係作りに心掛けられている。また、他の部署との交流等が積極的に行われ、職員の異動等についても、日頃から入居者と顔見知りの関係が保たれるように努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人での勉強会が実施されており、職員が研修等へ参加出来るように、事前に情報提供されている。また、受講した研修内容については、全職員が閲覧できるように提示されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者との情報交換が積極的になされ、サービスの質の確保に努められている。また、同法人のグループホームとも活発な交流会がなされ、サービスの質の向上に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームとの交流の機会が確保されており、食事会等を通して徐々にホームの生活に馴染まれるように工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の自立支援を念頭に、日々の暮らしの中で役割分担がなされている。また個々に対しての趣味等も幅広く提供され職員も一緒に参加し学んだり、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や日々の関わりの中で、本人の希望や意向の把握に努められている。また、言葉だけでなく、入居者の態度等を通して意志の確認を行い、対応できるように取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の方々の変化など、職員が気づいたことは、ノートに記載し、毎月話し合い介護計画に反映されている。また面会時家族の希望等聞き取りがなされ、本人や家族の思い等に対しても対応がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の遂行状況や効果等を評価し、基本的には三ヵ月ごとの見直しがなされている。重大な変化があった場合は関係機関の意見も取り入れられ、現状に即した作成がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎、医療費助成の申請等、必要な援助は柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療施設ばかりでなく、かかりつけ医への通院支援や緊急時の医療についても、連絡体制が保たれており、適切な医療を受けられるように支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合など、主治医との話し合いの確保がなされている。また、家族や本人の意見のもと、適切な医療機関へ紹介をしたり、緊急時のマニュアルに沿った支援ができるようにされている。	○	重度化した場合や終末期の対応については、ホームの方針を文書化し、整備されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に対しての規定が設けられており、全職員は取り扱いについて注意している。また、入居者に対しては、敬意を持って接するように努められ、人としての誇りやプライバシーに対しての配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに沿った基本的な一日の流れが組み立てられており、個人の体調等にも配慮した生活支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事を準備する、作る、盛り付け等、支援がなされている。また、音楽を聴きながら職員も一緒に食事をして、楽しい食事時間となるよう努められている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	法人内の他の施設の浴室を活用するなど、個人の好みに合わせた入浴プログラムが準備されており、入浴が楽しめるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力に応じて、カレンダーめくりや洗濯物たたみ等、役割づくりや特技を生かした支援がなされている。また、レクリエーションの時間を設けて特技や趣味等を披露し、張りのある生活支援に努められている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から同法人内の他施設との交流がなされている。その他、季節の行事や買い物など、個人の希望に沿った外出の機会が確保されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は併設された他の事業との交流や散歩など、本人の希望に沿う支援に心がけており、ドアの鍵はかけられていない。安全確保については、センサーチャイム等により工夫がなされ、職員に対しての周知がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回は消防署の協力を得て、指導を受けながら避難誘導訓練を実施している。また、運営推進会議などにより、災害時の協力について、日頃から話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの個人ごとの摂取状況のチェックがなされており、状態の変化などに対応された支援がなされている。また栄養バランスについては、同法人の栄養士に献立の内容の確認等が行われ、一人ひとりの状況に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の思いや目標を短冊に綴りホールに掲げてあり、心地良い音楽も流れ、季節感も感じ取れる花など、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具などが持参され、家族の写真や本人の好みに応じた家具の配置がなされ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		